

出張報告書

令和 2年3月31日

会派名 志誠会
会長 立崎 聡一 様

出張者氏名

小田部 照

近藤 憲治



下記のとおり出張したので報告します。

記

出張期間	令和 2年 2月 13日(木) ～ 令和 2年 2月 14日(金) [2日間]						
出張概要	①	月日	2月13日	市町村名	旭川	会場	健康生活館旭川
		目的	健康なまちづくり推進議連 旭川研修				
		テーマ	「心の健康」を実現するための、お茶やお花の体験				
	②	月日	2月13日	市町村名	小樽	会場	小樽市文学館
		目的	北海道若手議員の会 小樽研修				
		テーマ	[小樽雪あかりの路]について				
	③	月日	2月14日	市町村名	旭川	会場	若者福祉センターオピッタ
		目的	健康なまちづくり推進議連 旭川研修				
		テーマ	健康なまちづくり推進議連 活動報告や意見交換会				
	④	月日		市町村名		会場	
		目的					
		テーマ					
所見	別紙のとおり						
備考							

※所見については、別紙(任意様式)で作成して下さい。

心身共に健康な住民を増やし、もっと健康寿命の延伸や医療費の抑制を図り、持続可能な地域を実現しようとする市町村議員のネットワーク「健康なまちづくり推進議員連盟」の第2回目の研修が旭川市内で開かれた。

活動報告では、当地、旭川市議会の松田卓也市議員が地域で取組む事例の発表があった。松田議員は御自身が住み暮らす永山地区の「地域まちづくり推進協議会」に参画。「集まる」「話し合う」「つながる」をキーワードに、社協や老人クラブ、商工会、消防団、地域包括、公民館など様々な組織が連携する組織において、松田市議自ら主軸としての役割を担っておられるとのこと。特に公園の空きスペースを利用した野菜の栽培体験を通じた食育や高齢者の引きこもり防止、居場所づくりとして運用する「きづなカフェ」での健康講座などで松田議員ならではの知見を活かして、地域のコミュニティの深化に力を尽くしている、とのことであった。特に子育て世代や高齢者は「健康」に対する興味関心が非常に強いことから、食の安全安心や健康寿命を延ばす秘訣などをテーマにして、住民を巻き込んでいくことが参加者の増加や担い手の増強につながるとのことであった。当市においても、社会福祉協議会が市の委託を受ける形で生活支援体制整備事業が進められている最中であるが、多様な住民、関係者が参画していくことが事業の成熟の鍵である。旭川市では既に具体的な形が出来上がり、地域の自主除雪や徘徊者の捜索ネットワークなどが立ち上がっている。当市においても私たち自身も当事者として関わりながら事業の推進に挑んでいきたい。

続いて、事例紹介として、静岡県掛川市の「人生100年時代構想」に協力するMOA インターナショナルからサポートセンター理事の横山茂弘氏の講演があった。

掛川市では、人生100年時代構想を市総合計画基本計画に反映することを前提に多様なアドバイザーを巻き込んだ新たな住民の「健康」「学び」「働き」を追求する仕組みを作り上げている。「健康面」では、「生涯お達者」をキーワードに若年層のうちから心身の向上を図り、健康を意識した生活を心掛け、健康寿命を延ばしていくことを重視している。そのために、「ふくしあ」という地域包括ケアの窓口を介護予防だけでなく、お年寄りの困りごと解決、住民同士の支え合いを具現化する拠点として活用している。また、そのために、町内会、社協、医療機関、消防団、商工会議所など多様な組織の連携を図っており、MOAも食育や美育などを通じて、お年寄りの日々の健康増進に協力しているとのことであった。

事例紹介を聞きながら、地域の課題解決は「行政だけで」「住民だけで」という単純な視点ではなく、あらゆる地域のプレイヤーを結び付け、得意分野で力を発揮していただく、という視点が極めて重要であると改めて確認できた。先

入観なく、柔軟な発想で「地域を良くしよう」という大局的な視点に立った連携の在り方を今後も模索していきたい。

後半には、私自身が昨年参加した「自由民主党統合医療推進議員連盟第19回総会」について内容の報告を行い、国会における「健康なまちづくり」に対する関心の高まりや「健康」の定義としてスピリチュアルという不定量的な分野にまで視野が広がりつつあり、昨今の国民意識もヒーリングや癒しといった部分でそこに向きつつあること、また、各地の地方議員の間で「健康なまちづくり」を推進する議員連盟設立に向けた動きが起こりつつあることを報告した。